

蒲田に住んでいたマティスの弟子

洋画家 中川紀元

鍋谷 孝

中川紀元という洋画家をご存知ですか？

二十世紀を代表するフランスの画家、アンリ・マティス（一八六九〜一九五四）の弟子、一説によれば日本人最後の弟子と言われています。大正八年（一九一九）に渡仏してマティスに師事。フォービズムの画風を学び、帰国後、日本の前衛美術運動と旗手として、二科会で活躍します。また文化人・与謝野寛、与謝野晶子、西村伊作、田辺茂一との交流の多い画家でした。

紀元は、昭和三年から二〇年（一九二八〜四五）まで、蒲田に居を構えていました。現在の蒲田図書館のある東蒲田です。多くの文化人が蒲田の紀元宅にやってきたと言われています。ご家族の手記によれば、評論家の小林秀雄、版画家の棟方志功、そして、松竹キネマ蒲田撮影所も近くにあったこともあり、映画監督、女優とも交流があったそうです。また、洋画家・東郷青児は、家の近くに住んでいたこともあり、親しい間柄でした。中川紀元と東郷青児との交流は、晩年まで続きました。



蒲田の自宅での家族写真

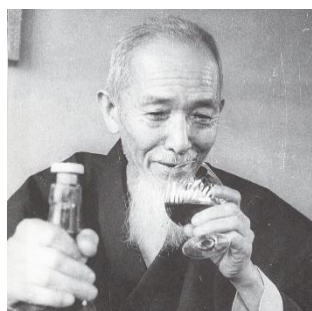
（一九四四年）

昭和二〇年、戦火が激しくなり蒲田を離れました。昭和二年（一九四七）四月、中川紀元、正宗得三郎、熊谷守一等九名にて二紀会を設立しました。会の名称は、紀元の紀をとって二紀会としました。

戦後は、故郷長野から武蔵野市吉祥寺に居を移し、画業に専心。画風も西洋モダニズムから東洋美術の文人画的な画風に移っていきました。

昭和三五年（一九六〇）から、産経新聞連載の尾崎士郎の新・人生劇場の挿絵を担当します。馬込文士の尾崎士郎の代表作との仕事は、紀元と、大田区の文化との縁を感じずには、いられません。その後、昭和三九年（一九六四）に昭和三八年度芸術院恩賜賞を受賞しました。（恩賜賞は、芸術院賞の中でも特に選ばれた受賞者に与えられる賞）昭和初期に蒲田地区で活動していた文化人の中では、小津安二郎と各務鑑三が芸術院賞を受賞しています。日本の芸術の一躍を担った逸材は、若き日には、蒲田で研鑽していたのですね。

（取材協力・写真提供 孫 中川直樹氏）



中川紀元